令和８年度　授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第三中学校

1　学校として目指す授業

ICTを有効活用した、表現活動や課題解決型授業を重視した「考えさせる授業」の実践

2　生徒の現状

（１）「全国学力・学習状況調査」の分析（３年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
（国語）言葉の特徴や使い方に関する事項や文章全体を３つに分けて整理したものとして適切なものを選ぶ問題などで、特に正答率が低い傾向が見られた。 （英語）ある文章を聞き、その後に示される3枚の絵を内容に合うよう並べかえる問題や、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書けるかを問う問題の正答率が特に低い傾向が見られた。 （数学）特に図形に関する問題で、三角形の合同を基にした証明問題や累積度数を求める問題などで正解率が特に低くなっている傾向が見られた。	・生活習慣(睡眠・食事)に乱れがあり、健康的な生活指導が必要である。 ・平日、休日ともに学習時間が短く、ICT機器の活用も低調である。 ・学びの自己調整が全国基準を下回り、自らを振り返り必要な学びを自己調整する力が求められる。 ・家庭学習、読書、ICT機器の活用など、「非授業時間の学び」の強化が急務である。

（２）清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（１～３年生）

（１年）
内発的な学習意欲が高く、授業理解度は8～9割と高い。一方で「分かる」が得意意識（自信）に繋がっておらず、丸暗記傾向や思考の可視化、自発的な発表・説明の力が不足している。
（２年）
自宅学習時間を分析すると、毎日の学習時間が３０分未満の生徒が全体の４０％と多い。家庭学習の定着が不十分であると思われる。類題に取り組ませるなど、家庭学習を習慣化できる取り組みが必要である。
授業の取組の中で、英語・数学による少人数・習熟度別授業を効果的であると捉えている生徒の割合が多い。
（３年）
授業の取組の中で、英語・数学による少人数・習熟度別授業を良いと考える生徒の割合が多い。授業の内容がわかると答えている生徒の割合が多いにも関わらず、テストの結果が低いことを考えると、家庭学習での内容や学校での補充学習などを見直す必要があると考えられる。

（３）　その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
東京都統一体力テストでは、本校生徒は全学年、全種目にわたって全国平均を下回る傾向が見られ、特に持久力（持久走）、敏捷性・筋力（反復横跳び・上体起こし）、跳躍力・握力において顕著な課題が示されました。この背景には、運動習慣の不足に加え、学習した運動のコツや体の使い方のポイントが定着しにくく、自らの身体動作や技術を言語化・意識化して再現する力の不足が影響していると考えられます。本校が目指す授業の実践に向けては、自分自身の動作を動画などで視覚的に記録・確認して客観的に理解させるとともに、ポイントを言葉や図でまとめ・共有する「表現・対話のプロセス」を授業に組み込み、試行錯誤しながら課題を自発的に解決していく学習内容の構築が重要な課題となります。

3　生徒の学力・学習状況等の課題

「令和8年度全国学力・学習状況調査」生徒質問に結果から、家庭学習の習慣がついていない生徒が多いため、学習内容が定着していない状況がある。授業で家庭で取り組む学習方法を具体的に提示し、次の授業で家庭学習の内容を確認・活用していくなど工夫をしていく。また、「本時のねらい（何を学ぶのか・なぜ学ぶのか）」から学習の見通し（どのように学ぶのか）を明示し、学習したことを「振り返り（何を学んだのか・分かったこと・分からなかったこと・もっと学びたいこと）」の活動を実践する。また、課題解決型の授業など、常に「考える」授業を実践していく。また、表現活動を重視し、ペア学習、グループ学習等、協働学習に取り組んでいく。全校の取り組みとして、朝読書は継続し、読解力、思考力等を身につけさせていきたい。

4　学校全体の授業改善の視点

「あ・じ・み・こ・し」を基盤とし、授業スタンダードの定着のために、規律ある授業と考えさせる授業の指導法の工夫の改善を図る。また、タブレット端末等のICT機器を有効活用し、表現活動を重視した協働学習の実践や、授業の「めあて」の提示や「振り返り」を実践していく。

お

5　各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1学年	基本的な漢字の読み書きを定着させるために、音読や漢字練習、辞書を引く機会を設ける。声に出して読むことで読めない言葉に気づき、文章を読んでいく中で、意味の分からない言葉を分かるようにしていく。文章で何が言いたいか、的確に読む力を伸ばす。		デジタルを用いた協働的な学びの時間を設定し、生徒同士で学び合う機会を増やすことで生徒の理解力や学習意欲を高める。また、資料を活用する機会を増やし、視覚的学習効果を高め、情報活用能力の育成を図る。また、定期的なノート点検で板書の確認・改善を行い、質を高める。		授業の目標を明確にし、振り返りを言語化することを意識しながら進めていく。また、小テスト・定期テストなどを目標としたスモールステップの取組を通して生徒が自信を持つことで、家庭学習の習慣の定着と学習意欲を高めていく。また、ICT機器を活用する場面を精査し、効果的な活用を目指していく。		授業のめあてを明確に示し、終末に振り返る活動を位置付けることで、学んだことを自分の言葉で説明できる力を育てる。実験や観察で得た気付きをICT機器で可視化し、グループで話し合う場を設けることで、「わかる」を自信につなげていく。		発声や体の使い方について繰り返し指導し、混声合唱に必要な基礎的な技能を伸ばしていきたい。また、多くの視点をもたせて多様な音楽の学習を行い、音楽への感性を高めていけるようにする。		１時間ごとの目標を明確にする。また、技能向上のために、個別指導を充実させる。鑑賞ではICTを活用する。 制作活動中にも相互に鑑賞時間を設け、言語活動を取り入れることで、表現の幅を広げながら言葉で表す力も高めたい。		1時間ごとの目標を明確にすることや単元の目標をより明確に示し、見通しを持った学習を工夫していく。また、仲間と支えあって活動する経験を増やし、苦手なものにも取り組める力を養わせていく。さらに、段階的な指導を通して、確実な知識・技能の習得を目指していく。		１時間毎の目標を明確にする。基礎的基本的な知識と技能の定着を図り、安全な道具、機器の使用方法を指導する。 食品や調理の選択と環境との関わりや地域の食文化等、身近なものから興味を持ち理解する取り組み方を指導する。		①小中連携を意識したフォニックスの授業に加え、自己の課題解決等のために、ICTや図書室を活用できた。 ②毎時間の目標を明確にし、自分の考えを表現する場を多く設けて、生徒に自己肯定感を持たせたい。		授業のめあてを明確にした上で道徳的価値について考えさせ、終末には自分の考えの変化を振り返らせる。教材に登場する人物の生き方や出来事を通して自他を大切にする心情を育てるとともに、ICT機器を活用して意見を可視化し、自分の考えを表現する場を増やす。	
2学年	基本的な漢字の読み書きを定着させるために、漢字練習の機会を増やし、教材に出てくる言葉から派生・関連する語句や表現に触れる機会を増やす。文章の展開や筆者の主張に対して、自分の考えを筋道立ててわかりやすく表現する力の向上を図りたい。		毎時の授業内容に基づき、全体授業・グループワークなどでデジタル教材を用いる協同作業などを増やし、生徒の思考・判断・表現の力を伸ばす。また、資料の読み取り問題を通して、多角的・多面的に思考できるよう指導していく。		生徒が主体的に取り組む授業をしていくために、発問の工夫をし、協働的な学習を積極的に取り入れ、自分の考えをしっかりと伝える力を身に付けさせる、また、デジタル教科書を利用し視覚的に捉えさせた授業をしていく。		授業の最初にめあてを提示し、最後にめあてが達成できたか確認するふりかえりを行う。また実験、体験等を通して、自然事物や現象に対する興味関心を持たせる。実験が難しい単元はＩＣＴ教材を使用して視覚や聴覚にうったえる授業を組み立てる。		音楽を形づくっている要素を手掛かりに曲を掘り下げる学習を通して、音楽的な見方を働かせて曲を捉える力を伸ばしていく。そして、それを生かして演奏活動を行うことで、音楽表現への意欲を高めていく。		取り組んだことが結果として見やすい課題を用意し、段階的に技能が身に付いていくように工夫をする。 完成までの道のりの全体像をつかませながら、毎時間小さな目標を設定し意識させる。		生徒自らがどのような力を身に着けていけばよいかを考え、自らその力の獲得に向けた授業内での取り組み方を工夫できるよう課題を設定していく。また、身に着けた知識・技能をどのような場面で生かすことができるかを例示も交えながら提示し、より単元のねらいに迫った活動ができるようにする。		今日的な課題としてエネルギー関係についての知識を深め、模型を活用した課題解決型のグループワークを行う。 衣服を買うときの知識を持たせ、日常着の手入れの仕方を自分で選択できるように指導する。		「予習（見通しを立てる）」や「できるようにならないときの学習方法の工夫」に課題がみられた。何のために何をする学習なのかを示すなど、自身の学習を振り返るような指導方法を展開することで見通しとできないときの工夫を改善していきたい。		多感な時期であり、自己肯定感の低下や他者否定が多くなりがちな年齢なので、道徳の教材の出来事や人物の心の葛藤を通して、他者の心を慮り、自他を大切にする心を育てる。その際にはICT教材を効果的に利用して、活発な意見交流を目指す。	
3学年	漢字の読み方や言葉の意味を確認しながら文章を読み、文脈の中で正しく漢字や語句を使えるようにする。また目的や場面、話の流れ等に応じて、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる力を伸ばしたい。		毎時の授業でスライドを用いながら視覚資料を提示し、生徒の知識の定着を図る。また、毎時の授業の最後に振り返りや発問へ取組ませるほか、授業内容に基づくグループワークで話し合う機会を設けることで、自分の考えをまとめ、表現する力を伸ばす。		関数や図形単元ではデジタル教科書を活用し、視覚的にも捉えさせたい。また習熟度別少人数授業での利点を活かし、授業中により多くの個別支援を行っていく。休み明けテストなどを通して達成感をもてるようにする。		授業のめあてを明確にし、振り返りを通して学びを整理する時間を確保する。観察・実験では予想→結果→考察の過程を重視し、根拠をもとに説明する力を育てる。ICT機器を活用して結果を共有し、対話を通して多様な考えに触れる機会を増やす		音楽記号や曲想の変化に注目させ、自分の演奏を録音したり互いに聴き合ったりする活動をする。これによって、音楽表現を創意工夫するための技能を伸ばし、他者と合わせる演奏活動への意欲を高めたい。		発想・構想時に様々な角度からイメージを膨らませてから表現できるように、生徒同士の意見交換の場を設ける。言語活動からイメージの具現化ができる活動を増やす。また、制作後の鑑賞・自己評価の活動も充実させる。		高校への接続や生涯にわたってスポーツに親しむ力を養わせていくために、生徒が自主的に教えあったり、支えあったりすることができるような活動の場を工夫していく。また、より発展的な知識・技能の獲得を目指し、課題に応じた活動の場を設定したり、工夫したりしていく。		身の回りの課題を見出し、ＡＩアプリ等でどう解決できるか、ウェブサイトの仕組みを身に付けながら取り組む。 自分や家族の生活について、課題を見つけ工夫させると共に、幼児の生活の発展に応じて必要な条件を学ばせる。		毎時間の授業の目標を明確にし、各単元のまとめとして行うパフォーマンステストを通じて、基本的なコミュニケーション活動に必要な音声や表現、文法などを習得し主体的なコミュニケーションを図ろうとする態度を養っていく。		様々な題材を通じて課題に取り組み、意見交換をしていく中で自分の考えをしっかり持てるよう判断力をより育成させていきたい。また、ICTを活用した授業を通して意見の共有を効率よくできるよう取り組んでいきたい。	

【授業改善推進プランの活用法】
①「１　学校として目指す授業」を設定する。
　※学校経営方針との関連を確認すること。
②「１　学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「２　生徒の現状」に，まとめる。
③「２　生徒の現状」を基に，学校全体の課題を焦点化して，「３　生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「３　生徒の学力・学習状況等の課題」を基に，「４　学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「４　学校全体の授業改善の視点」を基に，「５　各教科における授業改善の方策」を設定する。　→　教育指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し，３学期以降の指導に生かす。
　評価　◎…実施した。　○…一部実施した。　△…未実施